



大型ショッピングモールには華やかなクリスマスツリーがライトアップされる時期を迎えた。2020年のタイの出来事を十大ニュースの形で振り返ってみると、1位はやはり新型コロナウイルスが生活に与える影響だ。いまだ世界で収束が見えない状況下において、1月にタイ国内で感染が判明し、2カ月後の3月にはバンコク封鎖、非常事態宣言、夜間外出禁止令など、先行きに不安を感じるような行動制限を目の当たりにした。スーパーには長蛇の列、慌てて帰国する駐在員やその家族たちも多かった。

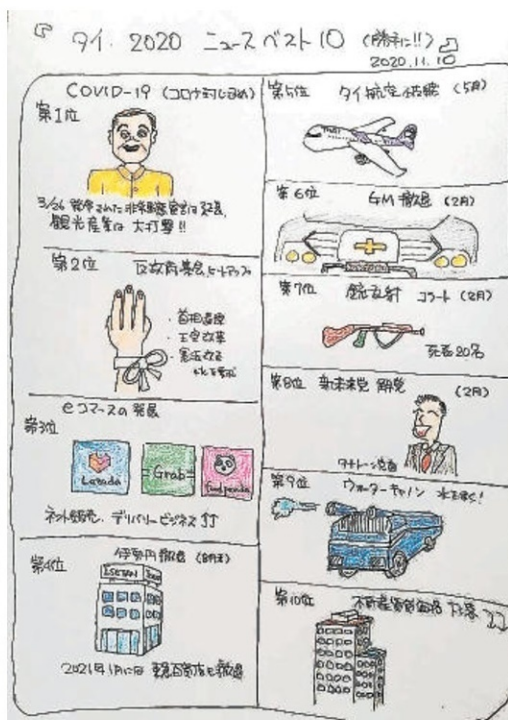
観光立国のタイであるが故に、観光産業はコロナによるダメージが大きい。航空会社も相次いで倒産に陥り、タイ航空の破綻を5位に選んだ。海外旅行(インバウンド・アウトバウンド)が止まり、観光地が閑古鳥状況に陥って約10カ

タイ、今年の「十大ニュース」

コロナで観光ダメージ

月が経ち、国内経済を立て直すためには観光産業の復活が優先と考える。しかしながら、観光局と保健局の温度差は大きく、観光客の受け入れはスローペースである。

2位に選んだ反政府集会は、9月を過ぎて開催頻度が高まり、1万人を超える大きなデモ行進も度々あった。コロナ禍、景気浮揚対策に効果がないことや、仕事を失う者、就職できない者の不満を背景に広がった「終わりのなきコロナ」と言えるのではないだろうか。



筆者が選んだタイの2020年の十大ニュース

そのほかのコロナ関連では、発展が著しいeコマース(電子商取引)が3位にランクイン。ネット通販やデリバリービジネスは今後も成長する分野である。こうした市場の変化をよく把握するなど日系企業の販路開拓も柔軟な対応が必要となる。ネット販売はこれからのビジネスの基本となろう。

また、消費意欲の低下もあって「高価」とのイメージがある日系デパートの撤退を4位に選出。米国の自動車メーカーの撤退も印象的な出来事で6位とした。

11月に入ってワクチン開発が進み、米国や日本の株価は急騰。思えばねずみ年は株式相場が好調になると言われている。21年の今年は「我慢(耐える)」や「発展の前触れ(芽が出る)」を表す年になると言われている。タイ国内では非常事態宣言が1月15日まで延長されたが、制限が撤廃され、商用あるいは観光トラベルが再開できる「芽」が出ることを期待したい。

(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝)